

証券市場新聞

1 第166号

日経平均株価

2万0333円17銭

▼418円11銭(前日比)

TOPIX

1539.40

▼29.63(前日比)

2019

2/11

月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



5G関連は成長分野

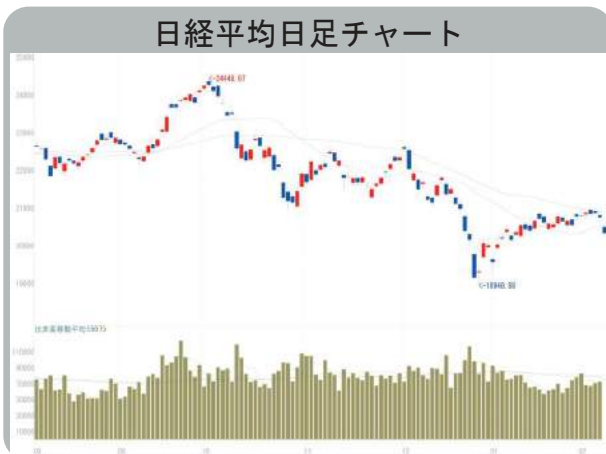
第3四半期決算好調企業を選別へ



3Q決算では5G関連の好調が目立った

計画を従来の上回
要が従来の上回
開末の初期需
端の初期需
のチップセ
ア地域にお
北米・アジ
正、これは
幅に上方修
2倍)へ大
(前期比2.
110億円
0億円から

で530
営業利益
3月期を
も19年
857(6
ストバン
ドではア
組は修正
上方修正
性がある
する可能
更に拡大
も受注が
社以外で
から、同
れること



日本電産(6594)の下方修正が発端となり、業績下ブレラッシュが懸念されてきたが、実際には業種を問わず上方修正と下方修正が入り乱れる状況となっ

予想を営業利益で7年3月期の連結業績がアンリツ(6754)だ。同社は19年3月期の連結業績

も選別が進みそうだ。要の限界も指摘されており、内需関連で

インバウンド限界？ 内需は選別

3月期決算企業の第3四半期発表が終盤に差し掛かった。昨年末のアップルショックと年初の急激な円高、米中貿易摩擦から電子部品を中心に輸出系には業績下ブレ懸念が高まっていたが、実際には輸出系や内需系、業種を問わず個々の企業間で業績の優劣が明確になってきているのが特徴的だった。今後は来期を見据えた動向もより重要視されてくることになる。好決算で物色された銘柄の中から株価の位置とテーマ性などを見ながらより選別物色が進むことになりそう

一方、ココカラファイン(3098)などドラッグストアの一部での業績下方修正が気になり。災害の影響などがあるものの、出店競争激化やインバウンド需要の限界も指摘されており、内需関連で

今週の動意銘柄

ソニー市場予想下回る

3Q2ケタ超の増益も減速

週明け4日、ソニー(6758)は急反落。19年3月期第3四半期累計の連結営業利益は8115億500万円(前年同期比13.9%増)と2ケタ超の増益で着地したが、直近3カ月の10〜12月期は3769億8800万円(同7.5%増)と増益ピッチが鈍化、市場予想を下回ったことで失望売りを浴びた。ゲームやイメージセンサーが伸び悩んだ模様。通期最終利益を7050億円から8350億円(前期比70.1%増)に引き上げ、年間配当を

35円(前期27円50銭)への増配を決めたが、増額は米減税によるもので反応は限られた。

大塚商計画超で増配

4日、大塚商会(4768)がストップ高。18年12月期の連結決算は、売上高7598億7100万円(前の期比9.

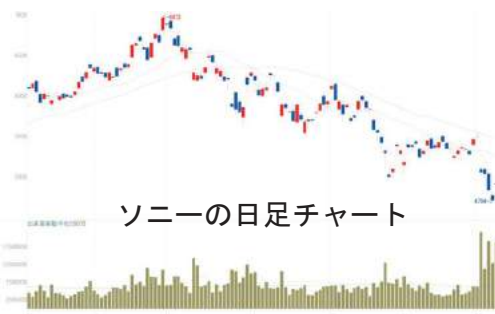
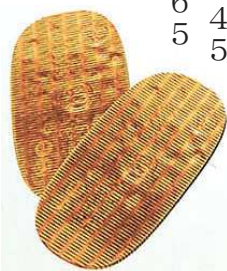
9%増)、営業利益480億5800万円(同8.3%増)計画を上回り増収増益を確保、期末一括配当を従来の72円50銭から85円引き上げた。システムインテグレーションが順調に伸び、オフイスサプライの「たのめーる」も堅調に推移した。

正直いいさんの株で大判小判

8日の東京市場は大幅続落となり、米中貿易摩擦問題の不透明感や欧州景気に対する懸念で前日の欧米株が安く、リスク回避の売りが優勢でした。7日のNYダウは売り一巡後に戻して220ドルの下げの昨年12月CMEの25先物が大きく変動していることを急いで線割り込は下値とし、25日みましたが、2万円台で意識され、押目買いと見えています。

銘柄のソースネクストリマ化成(4410)、54)、カブコン(9654)は引き続取り候補のサンバイオ(4592)やグレイステク(6541)も買い持ちで問題ないでしょう。一方、ZOZO(3092)を売り持ち。

花咲翁



ファストリ既存店減少

5日、ファストリテイリング(9983)が急落。4日に1月の国内ユニクロ売上情報を発表、既存店+ECコマースの合計では前年同月比1.0減とのマイナースとなつたことが嫌気された。

5日、ファストリテイリング(9983)が急伸、一時TOA42%営業増益(09)が急伸、一時

アンジェスS高

6日、アンジェス(4563)がストップ高。日刊薬業が「厚生労働省が20日に薬事・食品衛生審議会再生医療等製品・生物由来技術部会を開く」と報じた。同社が重症虚血肢の適応で承認申請したHGF遺伝子治療AMG0001の承認の可否も審議するとされており、承認されれば、国内初の遺伝子治療薬になる可能性がある。

英和3Q71%増益

8面コラム参照

6日、英和(9857)が急伸。19年3月期第3四半期累計の連結決算を発表、売上高は258億7300万円(前年同期比11.8%

増)、営業利益は8億9400万円(同70.9%増)と大幅な増収増益となつたことが材料視された。官公庁、化学製品製造業、機械製造業、船舶用機器製造業、電力会社を中心に引き続き販売は好調に推移。4面決算記事参照

企業観察

カプコン(9697)

バイオRE:2好調な発進

12月の連結決算は売上高61.2億7000万円(前年同期比28.3%増)、営業利益13.4億6100万円(同92.0%増)、純利益は9.1億8000万円(同2.1倍)と大幅増収増益かつ第3四半期ベースでの過去最高益を達成した。大阪取引所での決算発表の席上、野村謙吉取締役専務執行役員最高財務責任者(CFO)が期待される。



カプコン(9697)の19年3月期第3四半期累計(18年4月)

第3四半期は92%営業利増益

○写真「デジタルコンテンツ」での利益重視の戦略が寄与した。「モンスタースターハンター…ワールド」を含めてリピート販売も好調とされていた。通期は売上高960億円(前期比1.6%増)、営業利益170億円(同6.0%増)、純利益120億円(同9.7%増)と従来見通しを据え置いた。1月25日発売の「バイオオハザード RE…2」が発売初週で300万本を出荷したことに加えて3月8日には欧米で人気の高い「デビルメイクライ5」の発売も控えており、上振れが期待される。

今週の動意銘柄

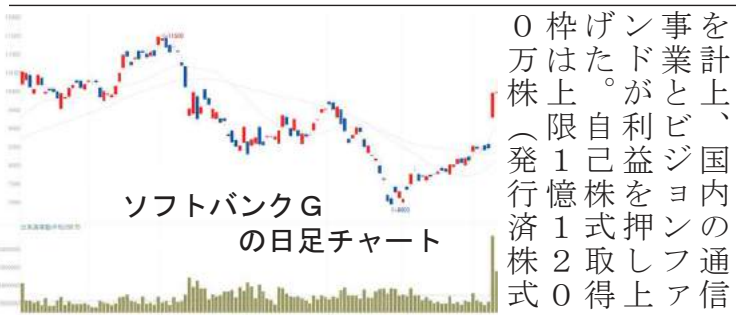
週末8日、ソニー(6758)が急反発。この日立ち合い会前に発行株の2.36%にあたる3000万株、金額にして100億円を上限とした自社株取得枠を設定すると発表したことで、見直し買いを集めた。取得期間は2月12日から3月22日までで、需給改善による株価浮揚が期待された。

8日、レオパレス21(8848)がストップ安。建築基準法違反で損失引当金を追加計上、19年3月期の連結最終損益予想を下方修正し、未定としていた期末配当を無配にするなど発表したことを嫌気した売りが殺到。

ソフトバンクGはS高

62%増益で10%超の自社株買

7日、ソフトバンクグループ(9849)がストップ高。第3四半期決算の大幅増益と自社株式取得枠の拡大を設定したことが材料となった。営業利益1兆8590億7000万円(前年同期比61.8%増)と



を計上、国内の通信事業とビジョンファクトリーが利益を押し上げた。自己株式取得枠は上限1億1200万株(発行済株式総数に占める割合10.3%)、6000億円で、取得期間は2月7日～20年1月31日まで。

7日、サンバイオ(4592)がストップ高。再生細胞薬の慢性脳梗塞対象の臨床で評価項目を達成できず、5日連続ストップ安で時価総額の8割が消滅する暴落となったが、5日ザラ場で商いが成立、前日で追証の発生に伴う投げが峠を越した。

サンバイオ急反騰

トレンド下方転換

先週の東京株式市場は5週間ぶりに反落しました。週初は上昇継続で2万0981円まで上値を伸ばしましたが、上値は重く日足ローソク足は陰線つづき。週末に欧米の株価が急落したことで、日経平均は日足の窓を空けて急落となりました。再三お伝えしておりますように、昨年10月の高値からは日経平均は4波動となっており、今回の下落で5波動目の下落となるのかどうか。TOPIXでは5波動の下落が終了しているために微妙なところではあります。

既に大底打ちとなっているのであれば、今回の下落は二番底形成の動きと考えられます。その場合、下値の目処は1万8948円～2万0981円の上昇に対する38.2%押しならば2万0204円、半値押しであれば1万9964円、61.8%押しならば1万9724円、78.6%押しまでいけば1万9383円ということになります。

日々勇太郎

ソニー2.4%の自社株買い

効果が期待された。

レオパレス21はS安

8日、レオパレス21(8848)が

転ばぬ先のテクニカル



～決算情報～

TOA

第3四半期42%営業増益 商業施設や交通インフラ向け伸長

TOA(6809)の19年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高324億2200万円(前年同期比8.1%増)、営業利益24億5300万円(同41.5%増)、純利益15億7100万円(同56.9%増)と増収大幅増益で着地した。減災・防災市場向けは伸び悩んだものの、商業施設や交通インフラ市場での販売が伸び、海外ではインドネシアでの流通開拓やタイでの大型物件の販売が堅調で、ベトナムでは官公庁向け、アメリカ、カナダでは鉄道車両向け、中国でも空港向けなどの大型物件や新規流通開拓などにより売上高が増加した。

通期は売上高470億円(前期比6.4%増)、営業利益34億円(同3.2%減)、純利益21億5000万円(同0.5%増)と従来見通しを据え置いた。

あじかん

3Qは減価償却などで減益 冷凍食品輸送会社を子会社化

あじかん(2907)の19年3月期第3四半期累計(2018年4月～12月)の連結決算は売上高337億400万円(前年同期比4.5%増)、営業利益は7億6800万円(同18.3%減)、純利益は6億3400万円(同1.1%減)だった。ヘルスフードが大きく伸び、増収を確保したが、つくば工場稼働に伴う減価償却負担の増加に加え、次期成長拡大に繋がる戦略的経費の計上を行ったことなどが影響している。

通期は売上高455億円(前期比5.9%増)、営業利益12億5000万円(同4.1%増)、純利益8億円(同6.7%増)と従来見通しを据え置いた。同時にフローズン(冷凍)チルド(冷蔵)食品の幹線輸送便などを展開する井口産交(広島市佐伯区)の子会社化を発表した。

立花エレテック

施設事業大幅に伸びる 第3四半期は7%営業増益で着地

立花エレテック(8159)の19年3月期の19年3月期第3四半期累計(2018年4月～12月)の連結決算は、売上高1334億9200万円(前年同期比2.9%増)、営業利益47億3800万円(同7.0%増)、純利益36億7800万円(同14.3%増)と増収増益となった。

海外市場では、中国において半導体分野で減速感が出ているものの、国内市場では、FAシステム、半導体デバイス、施設の主要3事業を中心として総じて好調に推移。施設事業では、製造業における工場の増設や建て替えの動きに伴う案件が増加する中、大幅に伸長した。

通期は売上高1820億円(前期比2.1%増)、営業利益64億5000万円(同0.9%増)、純利益46億円(同1.3%増)と従来見通しを据え置いた。

英和

2ケタ増収で71%営業増益 成長分野で新規顧客開拓進める

英和(9857)の19年3月期第3四半期累計(2018年4月～12月)の連結決算は売上高258億7300万円(前年同期比11.8%増)、営業利益8億9400万円(同70.9%増)、純利益は6億1300万円(同71.9%増)と大幅な増収増益となった。成長性の高い分野での新規顧客開拓を推進し拡充した全国の営業拠点網を活用。社会インフラ設備への公共事業投資や高水準な企業収益による設備投資案件を取り込み、官公庁、化学品製造業、機械製造業、舶用機器製造業、電力会社を中心に引続き販売は好調に推移している。

通期は売上高355億円(前期比3.3%増)、営業利益12億円(同12.8%増)、純利益7億5500万円(同3.0%増)と従来見通しを据え置いた。

～決算情報～

大和ハウス工業

西尾レントオール

第3四半期増収増益確保 不動産投資積極化し複合開発推進

1Q2ケタ超の増収で増益 国交省大規模工事や首都再開発で

大和ハウス工業（1925）の19年3月期第3四半期累計の連結決算は、売上高2兆9515億8700万円（前年同期比9.5%増）、営業利益2679億800万円（同6.2%増）、純利益1843億4300万円（同5.1%増）で着地した。

新設住宅着工戸数が全体として減少、一般建設市場も前年割れとなるなど事業環境に厳しさが増すなか、賃貸住宅・商業施設・事業施設の成長ドライバー3事業を強化、不動産開発投資を積極的に行い、三大都市圏・地方中核都市で商業施設・オフィス・ビジネスホテルの複合開発を進めることで増収増益を確保した。

通期は売上高4兆500億円（前期比6.7%増）、営業利益3540億円（同2.0%増）、純利益2400億円（同1.5%増）と従来見通しを据え置いた。

西尾レントオール（9699）の19年9月期第1四半期の連結決算は、売上高393億900万円（前年同期比12.8%増）、営業利益49億6500万円（同7.7%増）、純利益30億6000万円（同2.4%増）と増収増益で着地した。

国土交通省による大規模工事に加え、都道府県や高速道路などでも受注を確保。首都圏再開発や工場・物流倉庫などの新築工事が好調が続く、オリンピック関連工事の最盛期に入り、高所作業機を中心に売り上げを伸ばした。さらに、大型土木現場向けバッテリー機関車の製造も進んだ。

通期は売上高1478億6000万円（前期比8.2%増）、営業利益158億8000万円（同7.5%増）、純利益96億円（同3.0%増）と従来見通しを据え置いた。

経営者必見！



企業が抱える様々なリスクに備える

無料相談受付中！

証券市場新聞提携フィナンシャルプランナーが提案します

無料相談は（株）証券市場新聞社 アドバイザリー業務部まで

info@marketpress.jp

チャート から読む 騰落銘柄

プレステージ(4290)



1月24日の1161円を底に上昇、1400円台に乗せた後に一服しているが貸借倍率0.96倍で売り残増の需給からも50日線接近で押し目狙い。3Q好決算から19年3月期上ブレ期待も。

ハリマ化成G(4410)



3Q好決算と自社株買発表ををきっかけに上昇再開。日足が陽転、大勢上昇トレンドのなか、鋭角的に上昇してくる5日移動平均を下値支持ラインに上値志向強める。昨年来高値1194円抜けから一段高へ。

マンダム(4917)



第3四半期での決算悪を嫌気して1月31日に2521円の昨年来安値を付ける。その後の戻りも鈍く、2016年8月に付けた安値2007円も意識されよう。春節のインバウンド不振報道も逆風。

ZOZO(3092)



出店アパレル離反による一段の収益悪化懸念が根強く、再び昨年来安値を更新。25日線と日足一目均衡表基準線に上値を抑えられるかたちで下落が続く。月足も陰転の方向で、一段安を警戒。

※チャートは日足

潮流

日本を強化する強い姿勢を

今こそ大胆な対策を打ち出すべき

market/bAnk

米国株は昨年12月の暴落を取り戻す勢いで上昇。米ダウ平均は12月4日に2万5980

ドルだったが、12月26日に2万1712ドルまで4268ドルも(16.4%)下落した。その後、急速に切り返し、2月6日に2万5427ドルまで戻した。S&P500種株価指数も昨年12月24日に付けた安値から約16%高い水準まで戻した。昨年10月に下回った200日移動平均(2740)にほぼ到達。今後200日移動平均を完全に上抜けすれば、市場心理がさらに強まるだろう。

過去30年超の間、米連邦準備理事会(FRB)の動きが米国株安に歯止めを掛けたタイミングは7回ある。その後の反発局面では19~40%上昇している。FRBが2019年の利上げペース減速を打ち出してから株価の上昇率は16%ほど。リバウンド余地はなお大きい。一方、日本株の戻りが鈍い。日経平均は昨年12月3日の高値2万2698円から26日の安値1万8948円まで3750円(▼16.5%)暴落した。その後、2月6日に2万0971円まで2023円(△10.6%)も急上昇しているが、米株と同じ上昇率で計算すると2万2055円となる。日経平均の戻りが悪いのはドル円が戻

っていないからだ。12月4日は1ドル=113円台で、2月6日は1ドル=110円と3円も円高水準である。日本株は「円安→株高」、「円高→株安」となる。

株と為替を動かしているのはヘッジファン

ドだ。ヘッジファンドが円を売って、日本株を買わなければ上昇しない。米国や中国は国内経済を強くするためにあらゆる政策を打ち出している。本来、日本がデフレから完全に脱却するためにどの国よりも内需拡大政策を打ち出す必要があるにも関わらず、消費増税を行うといった真逆の政策を取っていることが外国人投資家には理解できないのだろう。日本経済を復活させるために政府は大胆に資金を出し、大規模な景気対策を打ち出して政府の強い姿勢を示すことが重要。家計の金融資産は1830兆円と世界トップだ。景気が本当に良くなれば国民はお金を出す。ヘッジファンドは一斉に株を買い戻し、日本株式市場が一変する。国民と企業が元気になれば税収は大幅に増加する。今こそ大胆な内需拡大経済対策を打ち出すべきである。

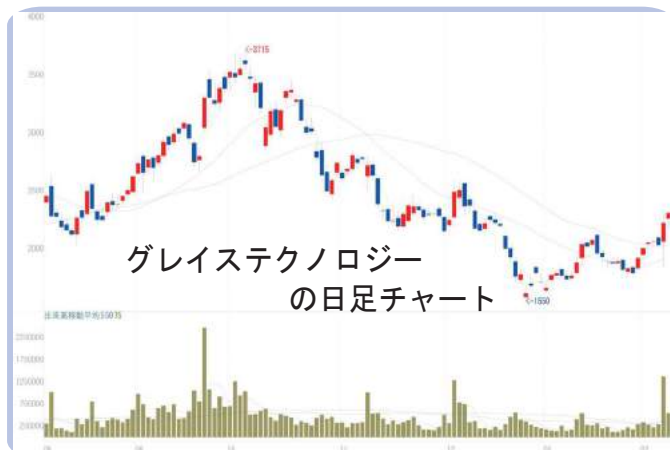
潮流銘柄はグレイステクノロジー(6541)、ラクスル(4384)、M&Aキャピタル(6080)。



岡山 憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロファイル

ら優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは155%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

一斉買い戻しで市場は一変



2万円前半で調整完了

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

日経平均は再三、2万1000円に向けてトライを続けていきましたが、乗せることができませんでした。出遅れ銘柄の物色

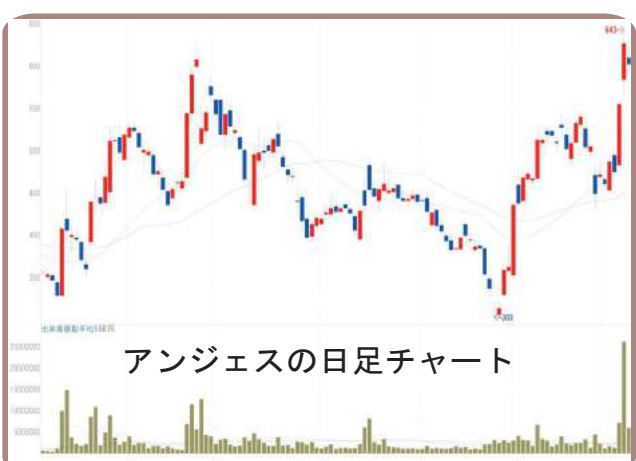
も一巡感があがり、好決算銘柄の物色を除いて外需、内需系の区別なく下落傾向を強める展開になつています。7日の東京市場では、好決算と大規模な自己株式取得枠の設定を公表したソフトバンクグループだけで日経平均を166円程度押し上げており、村田製作や東京エレクトロ、ム、スクリーン、ディスプレイなどの半導体や電子部品の一部の銘柄が

終着駅見えたアンジェス

ており、鉄鋼や化学、ゼネコンなども値を消しています。3連休明けは春節後の上海市場の動きを見る必要がありますが、当面は2万円前半まで調整、その後再び、好業績銘柄中心に戻していくものと思われます。この欄でも昨年から長きに亘り紹介してきましたアンジェス(4563)が6日にストップ高まで買われました。「日刊薬業」紙がアンジェスの遺伝子治療薬の審議が行われると報じていました。この会合で承認が決まるのが確実視されるために買われたのです。申請して1年1カ月後にどうやら認可されるものとみられます。翌日の7日は戻り待ちの売りでもたつたものの、後場に入り上げピッチが速くなり、626円の昨年9月高値を抜く627円で引けていました。認可の見込みが20日以降ですの、その間は上値を追いながら上げ下げの展開になるものと思われます。とりあえずは持続するのも一策です。長い間またされましたが、ようやく、アンジェスの相場が当面終着駅がみえたことは間違いな

堅調な程度です。半面、ファーストリテが下落傾向を強めるなど値ガサ系の下落が相場を冷やして

さそうです。決算が冴えなかつた大成建設を筆頭とするゼネコンを含めて主力系の調整が続く中、新興株が活発な動きをみせています。その象徴が1万2000円から2400円台まで大暴落をみせたサンバイオ(4592)です。8日は寄り付きから買い物を集めて急伸し、3000円台を回復していましたが、全般相場の膠着状態が続けば値動きの軽い新興株への集中が中物色が続きそうです。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市情報
れどや!!
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～売上至上主義からの脱却～

2月の行事といえれば節分とバレンタインデー。毎年、この時期になると話題になるのが恵方巻きの大量廃棄。関西大の宮本勝浩名誉教授によると節分の恵方巻きについて、廃棄される商品が全国で約10億円分に上るとの推計をだしていた。この問題を

各メディアが積極的に取り上げた影響かも知れないが、スーパーやコンビニの棚を覗いてみると、昨年よりはサイズが小さくなった恵方巻きが増えている。

大量廃棄は恵方巻きだけではない。一昨年、会社の近所のオープンしたコンビニでは山積みになったメロンパンが筆者には異様な光景に映った。新製品のキャンペーンとはいえ、ビジネス街でメロンパンを買い求める人がどれだけいるのかは疑問。オープン当初、地方から脱サラでコンビニのオーナーになったご夫婦は「地域一番店を目指したい」と語っていたのが印象に残っているが、本部と消費者の両方のニーズを満たすのは至難の業。その結果、大量廃棄を招くとしたら、不幸としか言いようがない。

企業を評価するうえで売上至上主義からの脱却が必要。無駄をなくして環境に優しい取り組みが必要だ。



企業レター

高らかに開幕宣言

U S J

ユニバ・スチューデント・フェス



飯豊まりえさんと福田愛依さんが開幕宣言

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは、平成をとともに成長してきた学生たちを平成最後の特別な春休みを盛大にお祝いし、思い出全力で「奇跡の1998年世代」と呼ばれる女優のひとりで、昨年話題になったドラマなどに多数出演するなど人気沸騰中の飯豊まりえさんと、プライベートでも仲良しで女優の福田愛依さんが駆けつけ、約200名の学生ゲストたちと一緒に「最高でしょ！」の掛け声とともに開幕を高らかに宣言した。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパンは、平成をとともに成長してきた学生たちを平成最後の特別な春休みを盛大にお祝いし、思い出全力で

アプリックス

水処理システムをIOT化

国内でも「HARRPS」を提供

アプリックス(3727)は、国内でも「HARRPS(ハープス)」の提供を開始した。

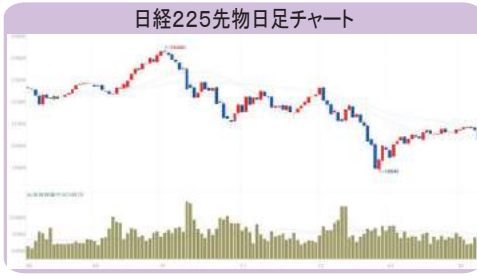
が、今回、国内でも本格的に提供を開始。すでに数社がトライアル利用している。

「HARRPS」は、水処理システムに流量センサー、簡易TDSセンサー(水に溶けている電解物質の除去率を測定するセンサー)等を接続して、浄水器のフィルターの使用状況や交換時期、水の汚れ具合等をモニタリングするプラットフォームサービス。2018年

海外ではウクライナ最大の浄水器メーカーEcosoftが「HARRPS」を採用、ガソリンスタンドチェーンのOKKOに設置されたウォータースタンドをモニタリングしている。

4月の発売以降、「水」に関するIOT化に対するニーズが多い欧米を中心とする営業活動を行っている。

日経225先物日足チャート



敏腕先物ディーラー ハチロクの裏話

上値重く揉み合い相場

2万2000円は堅い抵抗ライン

先週の日経平均は上値の重たさを感じさせる相場展開となった。NY市場が

1万8948円58銭から2月5日の2万981円23銭の上昇幅は約2032円、この日は約382%押しは2万205円処、一目均衡表の基準線は2万111円と2万100円から2万2000円には堅い下値抵抗ラインが見て取れる。大きな外部要因がない限りはこの水準で押し目買いは期待できよう。ただ、この水準を明確に割ってくるようだと2番底探りの展開になる。

続伸する中、為替も1ドル110円まで円安の方向に動いており、5日には2万981円23銭まで上昇する場面もあったが2万1000円の壁は厚かった。チャートのには以前から指摘していた昨年10月2日の高値を起点とする上値抵抗ラインできつちり跳ね返された形である。一目均衡表の雲の薄いところを狙

戻りは25日移動平均線(2万530円処)、窓埋めの2万665円51銭、上値抵抗ラインの2万8000円処となるう。(ハチロク)

つて上昇する期待はあったのだが、雲の上限を抜けないか金曜日は雲の下限を割

世界景気減速懸念が再浮上してきている。今週は揉み合い相場である。現在、ポリドンジャーバンドのバンドは収斂の動きにあり、△2σは2万955円処、▽2σは2万335円処、▼3σは2万180円処である。また、12月26日の安値

今週のスケジュール

- ・ 12日 1月マネーストック (8:50)
12月第三次産業活動指数 (13:30)
- ・ 13日 1月国内企業物価指数 (8:50)
米1月消費者物価 (22:30)
- ・ 14日 10-12月期GDP (8:50)
中国1月貿易収支
独10-12月期GDP (16:00)
米1月生産者物価 (22:30)/米11月企業在庫 (15日0:00)
米中閣僚級の貿易協議 (~31日ワシントン)
- ・ 15日 中国1月消費者物価、中国1月生産者物価 (10:30)
米2月NY連銀製造業景気指数 (22:30)
米1月輸出入物価 (22:30)/米1月小売売上高 (22:30)
米1月鉱工業生産・設備稼働率 (23:15)

編集後記

母が体調を崩した。8歳の高齢ともなると些細なことでも命取りになりかねない。一晚様子を見た後、近所の診療所で点滴を打ってもらおうとすぐに元気になった。ところが、その日のうちに症状が悪化。翌日、総合病院で診療してもらおうと脱水症状だという。夜中や外出中にトイレに行きたくないなどと、ついつい水分をとらなくなる。これが、病気を発症しやすく、熱中症による死亡を多発させる高年齢女性の悪い癖らしい。株式投資も成り行き注文による高値つかみなど悪い癖は直さねばと思う。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らねたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。